

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書

平成31年1月25日（金）作成

校長 小林 大

記述者 教頭 小林 雅人

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- (1) 豊かな人間性の育成
- (2) 確かな学力を育む指導と評価
- (3) 体力向上と健康安全意識の向上
- (4) 愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- (5) 安全安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

分析・作成にあたって

「学校評価」の目的は、PDCAサイクルにより学校組織や運営等を改善していくことにある。また、その結果を公表することにより、説明責任を果たすとともに保護者や地域住民の理解と参画を得て学校づくりをしていくことにある。そうした観点に立ち、法規（学校教育法・同法施行規則）に定められているからという理由だけでなく、「教育活動の改善を図る手立てとして有効に活用されること」を重要な点として捉え、今年度の「自己評価書」を作成した。

したがって、本校が今年度力を入れて取り組んできたことや課題となる項目について取り上げ、来年度の学校運営に生かしていきたいと考える。

（教職員アンケートについて）

- ・回答群A（とてもそう思う）とB（そう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、肯定率が85%以上のものは「達成ができています」として評価する。「肯定的な回答」が85%を下回る項目は、現在の本校の課題とする。
- ・A：4点、B：3点、C：2点、D：1点として回答を数値化し、各項目の平均値も算出した。「平均値」が3.0を下回る項目は、現在の本校の課題とする。
- ・昨年度と比べ10ポイント以上差がある項目は、現在の本校の課題とする。
- ・「市」とあるのは、甲斐市の中学校全体（5校）のことである。

（生徒アンケートについて・保護者アンケートについて）

- ・教職員アンケートと関連がある項目については適宜取り上げる。
- ・保護者アンケートのEは、「わからない」という選択肢である。

1 全体の評価結果

- ・肯定的な回答が50項目中47項目で85%を超え、そのうち43項目は90%以上であった。教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが見てとれる。

＜本校のオリジナル項目＞

- I⑧「多忙化解消のための取組の成果（学校）」（73.9%）
- II⑨「多忙化解消のための業務改善（個人）」（87.5%）
- III⑨「習得した知識・技能を活用する授業」（100.0%）
- III⑩「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」（100.0%）
- IV⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」（100.0%）
- VI③「読書に積極的に取り組む指導」（100.0%）
- VI④「学校行事に進んで取り組む指導」（100.0%）
- VI⑤「強化週間等を活かした指導」（100.0%）
- VI⑥「生徒が発表活動に主体的に取り組む指導」（100.0%）
- VI⑦「小中連携を意識した教育活動」（95.8%）
- VI⑧「北中ボードの活用」（95.0%）

- ・Ⅰ⑧、Ⅲ⑩、Ⅵ⑦、Ⅵ⑧については、昨年度から設定した項目である。ただしⅢ⑩は、昨年度「考え、議論する授業」としていた。
- ・Ⅱ⑨については、今年度新たに設けた項目である。

<肯定的回答率 85%あるいは平均値 3.0 を下回る項目> ※現状の課題となるもの

- Ⅰ⑧「多忙化解消のための取組の成果」(73.9%・平均値 2.8)
- Ⅲ④「個に配慮した授業」(78.9%・平均値 2.9)
- Ⅴ①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」(71.4%、平均値 2.8)

<肯定的な回答が、昨年度に比べて 10 ポイント以上の差があった項目> ※現状の課題となるもの

Ⅲ④「個に配慮した授業」-10.0ポイント(H29 88.9% H30 78.9%)

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について（教職員用アンケートから）

達成状況

<

改善策	・毎週行われている「校内企画委員会」で「業務改善委員会」を行い、職員の多忙化解消や業務改善について話し合う機会をもつ。また、校務分掌にもしっかりと位置づける。 ・提案を効率化し、会議等の効率化を図る。連絡事項についてはパソコンの掲示板を利用する。 ・行事が終わるごとに振り返りをし、PDCAサイクルを確立する。3年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化、業務の効率化を図る。 ・部活動については、平日1日と土日のどちらかを原則休むようにする。年間指導計画を提出してもらい、適正な運営状況の点検および指導を管理職が行う。 ・「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト10項目」を学期末（年3回）に行い、教職員の意識改革をしていく。 ・PTA組織を有効に使いながら、学校運営を支えてくれる地域人材を探す。また、職場体験学習においても、地域で協力してくれる職場をデータバンクとして年々更新していく。 ・月に2回「きずなの日」を設け、生徒と触れ合う時間をつくり出すとともに、定時退勤日とする。この日は、部活動や会議等を行わない。 ・出退勤記録票をつけることで、勤務時間を「見える化」し、超過勤務に対する意識を高める。1ヶ月の過労死ラインと言われる80時間を超えないように努め、45時間以内をめざす。
-----	---

II 学校運営について（教職員用アンケートから）

達成状況

- ・ 9項目中9項目で肯定的な回答が 85%以上（うち5項目は 100%）である。
- ・ 昨年度は課題であった「危機管理マニュアルの理解」は、肯定的な回答が 95.8%となった。
- ・ 課題項目はないが、Ⅰ⑧の課題に関連して次のもの（新設項目）がある。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
9	あなたは、多忙化解消のため、業務改善に努めている。	本校	25.0	62.5	12.5	0.0	87.5
		市	—	—	—	—	—
		H29 本校	—	—	—	—	—

※Ⅰ⑧の項目が学校全体の取組の成果を問うものであるのに対して、Ⅱ⑨の項目は個人としての取組に関してである。多くの職員が多忙化解消のため、業務改善に努めている。

・今年度は、職員が一丸となって学校運営にあたることができた。来年度も、この学校体制を維持して生徒への教育効果が上がるように努めていく。また、保護者や地域の理解も得られるような教育活動を行っていく必要がある。

Ⅲ 学習指導について（教職員アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

- ・10項目中9項目で肯定的な回答が85%以上（うち8項目は90%以上）である。
- ・昨年度は課題であった「教材・教具を活用した授業」は、肯定的な回答が82.4%→88.9%、平均値が3.2→3.6になった。
- ・昨年度は課題であった「考え、議論する授業（主体的・対話的で深い学びを意識した授業）」は、肯定的な回答が88.2%→100.0%、平均値が3.0→3.4になった。

【授業について】

- ・課題項目「個に配慮した授業」（平均値）3.0（肯定的な回答）78.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。 (平均値:H29 3.0、H30 3.4)	本校	15.8	63.1	21.1	0.0	78.9
		市	29.4	59.6	9.6	1.5	89.0
		H29 本校	11.1	77.8	11.1	0.0	88.9

※肯定的な回答が、昨年度本校や甲斐市中学校全体よりも低い数値となっている。授業改善は行われてきてはいるが、「個に配慮した授業」について、更なる研究と実践を積み重ねていく必要がある。

（生徒アンケートから）

- ・「学校の授業が楽しいか」（肯定的な回答）91.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	35.4	55.8	7.5	1.3	91.2
		1年	36.7	53.3	8.3	1.7	90.0
		2年	33.7	61.8	3.4	1.1	95.5
		3年	36.8	50.0	11.8	1.3	86.8
		市	30.4	54.8	12.2	2.5	85.2

- ・「先生はよく勉強を教えてくれるか」（肯定的な回答）100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	先生はよく勉強を教えてくれますか。 A よく教えてくれる B 教えてくれる C あまり教えてくれない D 教えてくれない	本校	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
		1年	70.0	30.0	0.0	0.0	100.0
		2年	67.0	33.0	0.0	0.0	100.0
		3年	63.2	36.8	0.0	0.0	100.0
		市	57.2	41.0	1.4	0.4	98.2

※これらの回答から、「学校の授業が楽しい」「先生はよく勉強を教えてくれる」と感じている生徒が多いことが分かる。その期待にさらに応えていきたい。

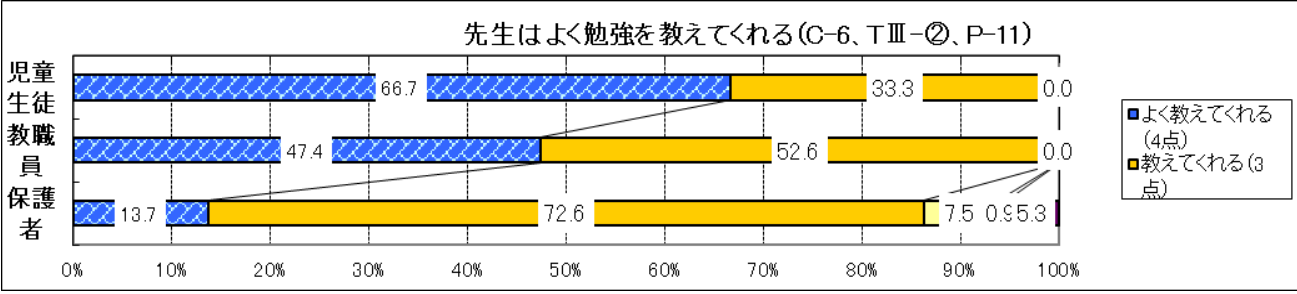
（保護者アンケートから）

- ・「学校は熱心に授業に取り組んでいるか」（肯定的な回答）86.3%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
11	学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	13.7	72.6	7.5	0.9	5.3	86.3
		1年	13.1	77.0	4.9	0.0	4.9	90.1
		2年	12.5	70.5	9.1	0.0	8.0	83.0
		3年	16.2	71.6	8.1	2.7	1.4	87.8
		市	12.5	68.4	10.3	2.3	6.4	80.9

※この回答から、「子どもにしっかりと学力を身につけてほしい。そのために、今以上に先生たちにわかりやすい授業を行ってもらいたい」という保護者の我が子への願いと学校への期待がうかがえる。

＜生徒・教職員・保護者との相関＞



※このグラフからも、本校の生徒と教師が良好な関係を作りながら授業を行っていることがわかる。

(教職員アンケートから)

・「質問や発言が出てくる授業を行っているか」(肯定的な回答) 94.4%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。 (平均値:H29 3.2、H30 3.4)	本校	50.0	44.4	5.6	0.0	94.4
		市	35.6	58.5	5.9	0.0	94.1
		H29 本校	62.5	31.3	6.3	0.0	93.8

(生徒アンケートから)

・「授業中に発言や発表をするか」(肯定的な回答) 72.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
11	授業中に発言や発表をしますか。 A よくする B する C あまりしない D しない	本校	34.1	38.6	25.0	2.3	72.7
		1年	25.9	41.4	31.0	1.7	67.3
		2年	48.3	34.5	13.8	3.4	82.8
		3年	23.0	41.9	33.8	1.4	64.9
		市	33.7	35.7	25.2	5.4	69.4

※これらの回答から、「発言や質問」に関する教師の意識と生徒の実態に大きな隔たりがあることがわかる。この結果を真摯に受け止め、発言者が固定しないような配慮も含め、授業改善に努めていく。

改善策

- ・3年間「道徳教育」の県指定を受け、「道徳」だけでなく、全授業において「考え、議論する授業（主体的・対話的で深い学びを意識した授業）」を行ってきたことは、教師の授業力を高めることに繋がっている。その実践をさらに継続し、研究を深めていく。
- ・北中ボードや付箋紙による思考ツールの使い方をさらに工夫していくとともに、多くの教科で使用する。特に、付箋紙活用による実践はまだ少ないので、その頻度を高めていく。
- ・数学科や英語科によるTT授業をさらに充実させていく。TTの形態を工夫し、授業を2人の教師で行うだけでなく、習熟度別学習も取り入れていく。
- ・「やまなしスタンダード」は、概ね定着しつつある。今後は、7つのスタンダードにおける質の向上に努めていく。
- ・小グループによる言語活動は、多くの授業で見られるようになってきている。単なる話し合い活動に終わってしまうのではなく、「お互いに学び合い、深めることができる」活動になるよう、さらなる研究実践が必要である。
- ・一斉授業ではなく、小グループによる学びを行う中で、教師には一人一人の生徒に目をかける「ゆとり」も生まれてくる。机間巡視をしながら、個に応じた働きかけを行っていく。
- ・授業計画の段階で、生徒の実態に応じた教材を準備したり、内容を考えたりする。個人差もあるので、それぞれのレベルに応じたものを用意する。例えば、理解の難しい生徒には「スモールステップの分かりやすい問題」を与え、通常の学習では物足りない生徒には、「チャレンジ問題」を解かせるなどの工夫をしていく。

IV 生徒指導について（教職員用アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

- ・ 7項目全てで肯定的な回答が95%以上である。そのうち、6項目が100%である。
- ・ 課題として取り上げなければならない項目はなかった。
- ・ 本校の重点項目として「問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応」がある。そして、それに関わって、「相談できる友達・先生がいるか」についても把握しておく必要がある。

【問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応について】 (教職員アンケートから)

- ・ 「問題行動の早期発見・早期対応ができているか」（肯定的な回答）95.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができていますか。 (平均値:H29 3.2、H30 3.5)	本校	50.0	45.5	4.5	0.0	95.5
		市	40.6	51.0	8.4	0.0	91.6
		H29 本校	27.3	68.2	4.5	0.0	95.5

※昨年度に引き続き、アンケート調査や面談等を通して、いじめの早期発見に努めている。また、全職員で情報を共有しながら、組織的な早期対応を心がけてきた。

(生徒アンケートから)

- ・ 「学校は楽しいか」（肯定的な回答率）94.3%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	学校は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	全校	58.0	36.3	5.3	0.4	94.3
		1年	60.0	38.3	1.7	0.0	98.3
		2年	56.2	36.0	7.9	0.0	92.2
		3年	57.9	35.5	5.3	1.3	93.4
		市	55.8	37.3	5.5	1.3	93.1

※この回答から、多くの生徒は学校を楽しんでいることがわかる。しかし、少数ではあるが、学校を「あまり楽しくない」（12人）「楽しくない」（1人）と思っている生徒がいる。

【相談できる友達・先生について】

- ・ 「困ったことがあったら相談できる友達はいるか」「いない」1.3% 3人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
3	困ったことがあったら相談できる友達はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	88.3		10.3	1.3	
		1年	91.5		6.8	1.7	
		2年	87.5		11.4	1.1	
		3年	86.7		12.0	1.3	
		市	90.2		8.5	1.4	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる友だちがいることがわかる。しかし、全校で3人の生徒が「いない」と答えている。

- ・ 「困ったことがあったら相談できる先生はいるか」「いない」4.4% 10人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
10	困ったことがあったら相談できる先生はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	80.9		14.7	4.4	
		1年	86.7		8.3	5.0	
		2年	80.9		16.9	2.2	
		3年	76.0		17.3	6.7	
		市	72.1		22.3	5.6	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる先生がいることがわかる。しかし、全校で10人の生徒が「いない」と答えている。

(保護者アンケートから)

・「お子さんには、相談できる友達がいるか」 「いない」 0. 9% 2人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
14	お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	74.4		11.9	0.9	12.8
		1年	73.8		9.8	0.0	16.4
		2年	73.9		13.6	0.0	12.5
		3年	74.3		12.2	2.7	10.8
		市	75.7		10.7	2.2	11.4

※この回答から、およそ四分の一の保護者が「子どもには相談できる友達がいる」と考えていることがわかる。しかし、「いない」と答えている保護者が2人いる。また、「わからない」という保護者が29人いる。

・「お子さんのことで、相談できる先生がいるか」 「いない」 7. 6% 17人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
15	お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	69.3		17.3	7.6	5.8
		1年	71.2		15.3	6.8	6.8
		2年	64.8		22.7	5.7	6.8
		3年	73.0		13.5	9.5	4.1
		市	62.6		21.6	7.8	7.9

※この回答から、約7割の保護者が「相談できる先生がいる」と考えていることがわかる。また、本校は甲斐市の平均も上回っている。しかし、C（あまりいない）とD（いない）という保護者が全体の四分の一を占めている。

【いじめの早期発見・早期対応について】

- ・「いじめは、どの学級でも起こりうるものであり、誰もが加害者にも被害者にもなり得る。」という認識をもち、校長のリーダーシップのもと、学校全体で迅速かつ組織的に対応する。
- ・「竜王北中学校いじめ防止基本方針」の見直しを定期的に行い、その方針に従いながら取り組んでいく。
- ・毎週行っている「生徒指導部会」において「いじめ防止対策委員会」を行い、生徒の情報交換をしたり、認知されたいじめの解決に向けた方策を検討したりする。
- ・学年会議や職員会議等でも生徒の情報交換を行い、担任だけではなく、組織的な対応をしていく。
- ・重大事態発生時には、校内委員（校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、当該学級担任、学年主任）だけでなく、校外委員（スクールカウンセラー、学校評議員、PTA役員、関係機関）も必要に応じて招集し、学校設置者の指導・助言のもとに対応にあたる。
- ・未然防止の取組として、「学級経営」「道徳を含めた授業」「学校行事」「生徒会活動」等を通して、互いに思いやれる関係づくりを全校挙げて行う。
- ・早期発見の取組として、「アンケート調査」「Q-U検査」「個人面談・教育相談」等を実施するとともに、小さな変化も見逃さないように日々の観察を丁寧に行っていく。

【不登校生徒への対応について】

- ・不登校生徒を出さないための取組として、「不登校防止のための講演会」「道徳教育の充実」「中一ギャップ解消のための小中連携」「生徒会活動の充実」「いじめ等調査の定期的実施」等をこれからも継続して行っていく。
- ・不登校生徒を減らすための取組として、「生徒理解部会を中心とした組織的対応」「SC・SSW・サポートルーム・オアクルーム・児童相談所等の関係機関との連携」をこれからもきめ細かに行っていく。また、必要に応じて「ケース会議」を開き、個々の生徒に対する対応策を協議し、その対応を丁寧に行っていく。

【相談できる友達・先生について】

- ・相談できる友達や先生がいない生徒が少数ではあるが存在する。このことを職員一人ひとりが重く受けとめ、学校として、日頃の生徒との関わりを見つめ直し、よりよい関係づくりを今後も地道に進めていく。
- ・お子さんのことで相談できる先生がいない保護者が存在する。子どもの健やかな成長のためには、家庭と学校の連携が必要である。教師から気軽に保護者の方に声をかけ、相談しやすい環境づくりに努めていく。また、生徒と向き合い、保護者とのコミュニケーションを取ることでできる時間的なゆとりを生み出せる職場づくりをしていく必要もある。
- ・3年間の「道徳教育」の指定研究の成果を来年度以降に繋げていく。

V 地域との連携について（教職員アンケートから）

達成状況

- ・ 8 項目中、肯定的な回答が 90%を超えた項目 6 項目である。
- ・ V②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」については、昨年度課題項目であったが、改善されてきており、肯定的な回答が 77.3%→86.4%となった。
- ・ 課題項目「地域人材や施設を活用した教育活動」（肯定的な回答）71.4%（平均値）2.8

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 (平均値:H29 2.7、H30 2.8)	本校	14.3	57.1	19.0	9.5	71.4
		市	12.6	55.0	26.5	6.0	67.6
		H29 本校	13.6	50.0	31.8	4.5	63.6

※昨年度は、肯定的な回答が 63.6%であり、甲斐市中学校の平均よりも下回っていたが、今年度は 71.4%となり、甲斐市中学校の平均を上回ってきている。「地域の教育力」を活用しようとする、職員の意識の変化が伺える。

改善策

- ・ これからの学校には、学校・地域・保護者が一体となって子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」づくりの視点が必要である。中学生のこの時期に、多くの大人との出会いの場を設け、多様な体験を通してさまざまな価値観と出会わせることが豊かな心の育成につながる。また、特色ある学校づくりの観点からも、地域の資源（人・物・歴史や地理の特性など）を生かした「社会に開かれた教育課程」が求められている。こうした点を教職員全員が認識し、各教科や総合・道徳・特別活動の担当で、積極的に地域人材や施設の活用を図っていく。このことは、今後国全体で推進していく「コミュニティスクール」への移行を考えたときにも、大切な視点である。
- ・ この学校評価も保護者の考え方や学校に対する評価を知る大切な機会である。また、引き続き P T A 学校委員会や学校評価委員会を活用し、保護者や地域の学校に対する願いや要望を聞く機会を充実させていきたい。
- ・ 強歩大会や P T A バザーでは、多くの保護者の方に協力をしていただいた。P T A 活動については、新たな活動を増やしていくという方向ではなく、今ある各専門部の活動の質的な充実を図っていくことで、魅力ある P T A 活動にしていきたい。

VI 学校の特色に関して

達成状況

- ・ VI⑦「小中連携を意識した教育活動」と⑧「北中ボードの活用」は、それぞれ 95.8%、95.0%であったが、それ以外の項目（8 項目中 6 項目）は肯定的な回答が 100%である。
- ・ 学校の特色を生かした「あいさつ」「学校開放日」「読書活動」「紫龍祭・強歩大会・合唱発表会等の行事」「学習強化週間・部活動強化週間・合唱教科週間等の指導」「各種発表活動」「小中連携活動」「北中ボードの活用」については、いずれも成果を収めており、北中教育になくてはならないものである。

改善策

- ・ いずれの教育活動や内容も、当たり前のもの（北中スタンダード）として定着してきているものである。しかし、一方でマンネリ化してきているところもあり、これらを維持・発展させていくためには、新たな試みも必要である。
- 「あいさつ」 黙礼や分離礼。何よりも心のこもった礼。
- 「学校開放日」 土曜参観。終日学校開放日。
- 「行事」 精選および内容の吟味。
- 「強化週間」 時間や内容の再考。
- 「発表活動」 主体的に取り組ませるための工夫。
- 「小中連携」 合同校内研。小中を見通した教育課程の編成。
- 「北中ボード」 思考ツール・プレゼンツールとしての活用。
- ・ 今後も、生徒の実態や地域の特性を踏まえ、教職員の個性を活かしながら、特色ある学校づくりを推進していく。そのためにも、P D C A サイクルによる学校運営を行っていく。

3 まとめ

<成 果>

- ・教職員による自己評価アンケートでは、教職員が高い目的意識を持って教育活動にあたっていることがわかった。
- ・生徒アンケートでは、生徒の実態がわかり、改善の方向性や今後の教育活動、学校経営のあり方を考えていく機会となった。
- ・保護者アンケートでは、本校の教育活動や学校運営についての保護者のとらえ方や見方を把握することができ、子どもを育てる点で同じ立場として、保護者と協働して、教育活動を展開していく上で有意義であった。

<課 題>

- ・項目によっては、教職員と生徒及び保護者のとらえ方や認識に差が見られた。その点については、真摯に受け止め、本校の教育活動を見つめ直す貴重な材料としたい。
- ・改善を図る必要のある項目については、学校全体で知恵を出し合い、合意形成を行い、チームとして取り組んでいく。また、即時に結果が出なくても継続して粘り強く取り組んでいく。
- ・今回の結果をこの1年間の本校の教育活動の結果であると捉え、教職員で共有し、次年度に確実ににつなげていく。

○自己評価の結果「多忙化解消のための取組の成果」「個に配慮した授業」「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」の3項目が、今年度の課題として挙げられた【Check 評価】。今後は、これらを全職員で絶えず意識をし、それぞれの改善策を行っていく【Action 改善】。PDCAサイクルが滞りなく行われるように、来年度4月の職員会議においても、全職員でこのことを再確認し、新任職員にも意識してもらう【Action 改善】。また、校長の「学校経営方針」を受けて、年度始めに本校教育の「重点項目」を設定し、それを「オリジナル項目」とする【Plan 計画】。その際、項目数を絞り、目標を明確化することが大切である。そして、「オリジナル項目」と3つの「課題項目」を重点目標として、年間を通した意識的な取組を行っていく【Do 実行】。それから、来年度の学校評価で、取組の成果と課題を明らかにする【Check 評価】。この繰り返し（PDCAサイクル）により、さらに素晴らしい竜王北中学校を実現していく。